

<おおさかカンヴァス インタビュー> 西野 達さん

昨年の「おおさかカンヴァス推進事業」にて作品が選定されていた西野達氏。震災等の影響で実施が延期された。公共空間や建造物などを使った大がかりなインсталレーションによって、世界各国で大きな話題を作ってきた西野氏は、おおさかカンヴァスのために、大阪をモチーフにした作品を初めて制作。いよいよ今年の秋、延期された作品の展示が予定されている。西野氏に意気込みなどをうかがった。

1 今回の作品“おおさかDNA”を発想したきっかけは何でしょう。

4 日本はアートにとってどういう環境の国でしょうか？

「おおさかカンヴァス」のテーマは「大阪」ですが、最終的にその変化に満ちた歴史を作品化したいと考えました。大阪を歩き回り大阪の資料を見るうちに、だんだんとそのアイデアが固まってきたのです。

2 この作品を通して、見る人に何を伝えたいですか？

「大阪の歴史」はあくまでも作品のバックグラウンドであって、それを伝えることが目的ではありません。「大阪の歴史」を勉強したいなら博物館に行った方がいい。アートとは普段見慣れたものを別の角度から眺めること。それによって日常に埋没していたものが、より的確に理解できたり、あるいは突然別の価値を持って現れてくるものです。何が伝わるかは、その人の生き方によって違ってきます。アートを見るという行為は、自分の人生を振り返ることでもあり、それによって自分の将来の進むべき方向性のヒントを得る場にもなり得るのです。

3 大阪のまちをどうとらえていますか？

大好きです。特に大阪人は日本で一番インターナショナルに活躍できる感性を持っています。世界の中で日本の経済を再び輝かせるためには、大阪人を日本人のスタンダードにすべきです。政治家も、大阪出身にしたほうが海外の政治家とうまくやっていくでしょう。東京に流されることなく、日本のためにも大阪の個性を全面に出していくって欲しいと思います。

ひとつの例としてこの「おおさかカンヴァス推進事業」があります。大都市での屋外展示を主にした、行政が主催する、日本では画期的な展覧会だからです。

屋外で作品を見せることが一番困難な国が何処かと問われれば、残念ながら日本と答えるしかありません。理由もなく、まず役所からの許可がおりません。この点も、日本が世界の中で遅れているもののひとつでしょう。屋外でアート作品を見ることは、開放された無料の美術教育にもなるということがなぜ理解されないのでしょうか？

5 今の日本へのメッセージをお願いします。

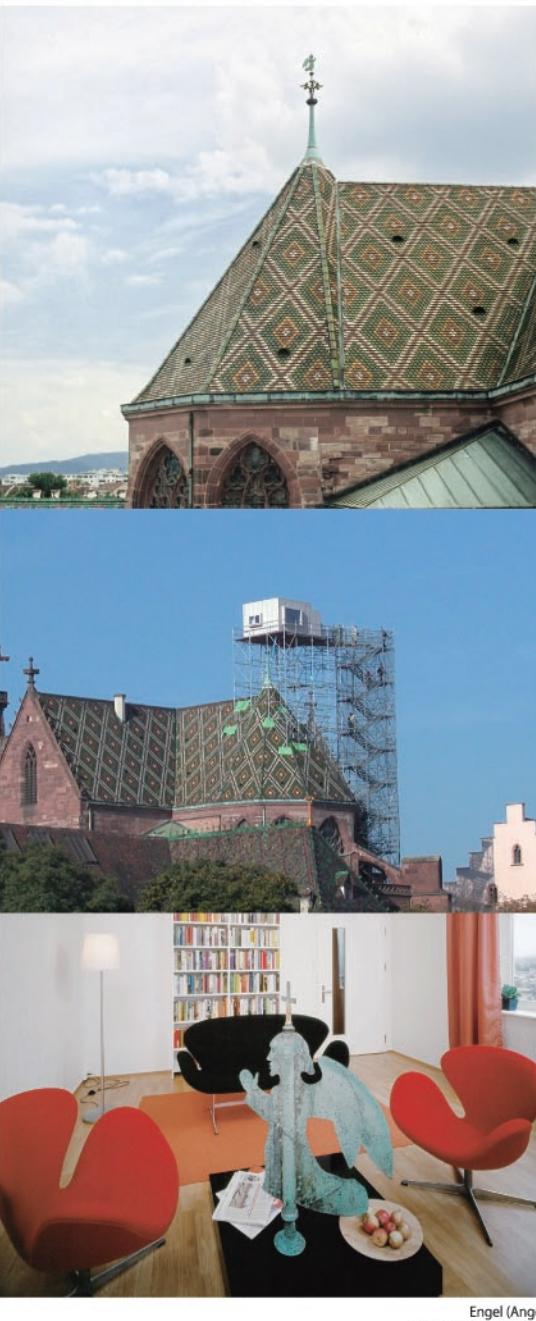
日本が停滞している原因は、横並びの発想と行動を良しとしてきた日本社会にあることは実質です。もうそれは立ちいかなくなっていることは誰が見ても明らかでしょう。世界で最も現代アートを必要としている国は、そういう状況のただ中にある日本なのです。なぜならアートは破壊活動であると共に、新しい方向性をも実際に示さなければならぬからです。それは今の日本に最も欠けているものではないでしょうか？



西野 達 (にしの たつ)

1960年、名古屋生まれ。現在、東京及びベルリン(ドイツ)在住。
2005年「横浜トリエンナーレ2005」、「Ecstasy」MOCA(ロサンゼルス、USA)、2006年「天の川のシェリー」メゾンエルメス(東京)、
2007、2009年「Estuaire」ナント/セント・ナザレ(フランス)、
2010年「愛知トリエンナーレ2010」等に出品。銅像などの周囲に居室やホテルを仮設で設けるなど、公共空間を使った大がかりなインсталレーションを世界各地で行っている。今春、シンガポール・ビエンナーレに参加し、マーライオン像をホテルで囲むプロジェクトで大きな評判を呼んだ。

撮影: 沢澤佐智子



「アートの現場で働くということ」～失業者たちとの協働作業～

おおさかカンヴァス推進事業は、「緊急雇用創出基金事業」として実施されたことから、多くの失業者の方々が雇用され、アート作品の制作や展示案内にたずさわった。また、ソーシャル・ワーカーとも連携し、ニートやひきこもりの方々にも積極的に制作の現場を提供、その経験を次の就労に結びつけてもらえるような取り組みを行った。

アートに興味がなかった人が、スタッフとしてアーティストやアート・マネージャーとチームを組んで作品制作にあたるという従来にはなかった取り組みについて、実際に働いたスタッフの方々にお話を聞きました。

“人生が豊かになるってこういうこと”



“自分を見つけた”



いわゆる引きこもりになって10年以上。何か克服しかけたところ、おおさかカンヴァスに出会った馬場宣一さん(35歳、枚方市在住)。独創的な発想で自由に生きるアーティストに強い刺激を受けた。ギリシャ出身のアーティストb.(ピードット)の壁画制作の現場では、“こんなことまでやらせてもらえるの？”と驚くほど制作を任せられ、大きな達成感があった。手先が器用な自分を見出し、成長している実感を持つことで、働く意欲がどんどん増したという。自分の仕事を評価してくれる仲間に初めて出会い、最後まで続けられたことで、心が強くなった馬場さん。「やっと自分が見つかった！」と大きな自信がついた。「ただ無気力に生きていた過去の日々が嘘のよう。今はもっと自分をアピールして次の仕事につなげたい」と意欲満々だ。

アーティストからは、丁寧でまじめな彼らとの作業を評価する声が非常に多かった。まったくアートに無縁だった人たちとの協働作業が、新しい創造の可能性を開いた面もあったようだ。様々な理由で社会との関係を結ぶのが難しいと感じていた彼らが、自分を取り戻し、再び目標を持って歩きはじめる。アートの現場にはそんな不思議な力があるのかもしれない。

企業・団体・府民の皆様へ

この事業の主旨に沿った作品発表場所のご提供や、制作資材・協賛金などのご寄付も募っておりますので、ご協力ををお願いいたします。

<http://www.osaka-canvas.jp/>

募集要項・提出書類等はおおさかカンヴァス推進事業の公式WEBサイトからダウンロードしてください。

応募先

〒559-8555 大阪府府民文化部 都市魅力創造局 文化課
おおさかカンヴァス推進事業 担当宛

*応募受付は、郵送のみとします。

おおさか カンヴァス 推進事業 2011公募

おおさかのまちをカンヴァスに！
アーティスト、デザイナー、地域団体、クリエイター等、
大阪を舞台にしたあらゆる表現活動を募集！

[募集期間] 平成23年6月6日(月)～7月22日(金)

大阪府



40作品
アートデザイン
プロジェクト
アーティスト
デザイナー
地域団体
NPO
下赤阪の棚田
<http://www.osaka-canvas.jp>



Osaka Canvas Project



大阪ミュージアム構想

*Osaka, The Museum Concept

この印刷物は10,000部作成し、1部あたりの単価は38円です。

新たな創造者たちへ

第1回おおさかカンヴァス推進事業の一斉展示開始は3月12日。震災直後の混乱の中、参加アーティスト達は激変し続ける状況に果敢に立ち向かった。予定していたパフォーマンス直前まで悩み続けるもの、作品を被災者に伝えるメッセージに見えるもの、自らのコンセプトを読み替える地でやせるもの…。それぞれが現実と真摯に向き合い見事な振る舞いで表現活動にenthousiasmated。結果、それらは震災前に想像していたもの以上に強度をもったアートワークとして大阪の街中に出現していたのだ。その作品群、あるいはアートイベントに心酔され勇気付けられたという市民の声を多く聞き、私はアートの持つ計り知れない可能性と社会での必然性を強く確信した。

それゆえ今回の応募もこのほか楽しみである。既に昨日ではない今日の中、現在を見事に切り取り今を生きる表現者達。彼らは震災後いかなる作品を産み落として行くのだろうか。私は必ず前回以上に都市のダイナミズムと闘い、現在の状況をポジティブに解決するアーティスト、そして作品が今だからこそ現れるに違ないと感じている。

世界は一度リセットされ再び蘇る。芸術の機能に信頼と誇りを持って立ち上がる表現者達。このコンペはそんなあなた達のために用意されたのだ。

ヤノベケンジ



「シャイアント・トラヤン」／撮影:豊永政史

昨年度のおおさかカンヴァス推進事業

大阪を舞台に多様なアートが各地で実施され、アートと都市の豊かな未来を開く可能性が示されました。（22年度、計22作品・プロジェクトを実施）

01. 「H.H.H.A. (ホーム、ホテルズ、秀吉、アウェイ)」
加藤 翼
大阪市中央公会堂前水上劇場、大阪城公園、万博記念公園



かつて「人類の進歩と調和」をテーマに一大イベントが開催された万博記念公園だが、輝かしい未来を単純に夢見ることができない現代において、大人も子供も改めて自分の夢について考えることで、社会の将来像やその期待を次世代へ、そして未来へ伝えることが意図されている。

03. 「E.T.D.OSAKA」
アースコンテナ 谷川 夏樹
服部緑地公園



巨大な構造体を“引き出す”

大阪を象徴する場所で、鎧張りの巨大な構造体を大勢の参加者ども“引き倒す”ことを目的としていたプロジェクト。中央公会堂前、大阪城公園、万博公園の3カ所が予定されていたが、第2回、大阪城での開催は東日本大震災の翌日だった。家をモチーフとした構造体を引き倒す行為にためらいを感じたアーティストは、スタッフや周囲の人々と話し合い、この日の実施は見送った。翌日、できるだけゆっくり、大きな音をたてずに構造体を立ち上げよう、大勢の人と気持ちを合わせて実施された。最終回の万博公園も含め、プロジェクトは“引き出す”協働作業へと変化することになった。

大勢力を合わせ構造体を動かそうとする行為から生まれる高揚感や緊張感は、我々人間の協働性がもともとほんらでいた原初的な感情かもしれない。そんな荒々しい体感を都市の真ん中で実現するプロジェクトは、都市の規制やルールを越えてどこまで行こうとするのだろう。

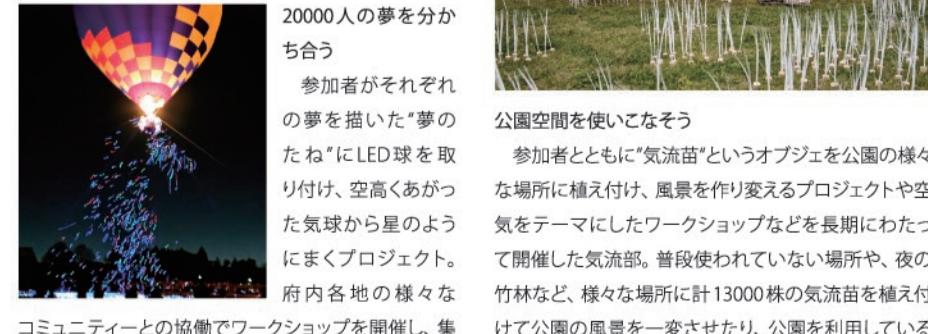
04. 「AIR-JACK」 in 服部緑地
気流部
服部緑地公園



公園空間を使いこなそう

参加者がそれぞれの夢を描いた“夢のたね”LED球を取り付け、空高くあがつた気球から星のようなくまプロเจkt。府内各地の様々なコミュニティとの協働でワークショップを開催し、集められた20000個の“夢のたね”は、気球かららいに降りた後、それを地上で5000人を超える人々に手渡された。

02. 「夢のたね」
高橋 匠太
万博記念公園



を“場の空気”として浮かび上がり、体感し、共有する試みがなされた。

様々な規定やルールがある公園で、行政や公園管理者、ランドスケープの専門家、地域の団体など、様々な人々との真摯な対話を積み重ね、公園の、ひいては公共空間の使いこなしの可能性をどこまで広げられるかを追求した気流部。彼らの一連の活動は公園関係者にも大きな影響を与え、「緑地気流部」も設立されるなど、彼らが拠点として作った部屋とともに活動が引き継がれることとなった。

05. 「淀川前夜祭」
淀川テクニック
淀川河川公園



世界を旅するコンテナ

港湾地域に集結するコンテナの機能的な形と鮮やかな色彩、そしてそれが世界中を旅するというロマンに魅了された作者は、地球をイメージした赤い“コンテナくん”を作成。“コンテナくん”は移動式ギャラリーとして世界各国を旅し、様々な人々にアートとの出会いを提供する長期にわたるプロジェクトである。今回は、惑星をイメージしたキャラクターをペイントしたコンテナをさらに7台制作し、公園に展示了。

コンテナの裏面には、震災を機に世界中の人々から届いた応援メッセージを“PRAY FOR JAPAN”的文字とともに書き込み、周囲に子どもたちが花びらを描くワークショップも開催した。コンテナのうち1台は、地域の人たちが活用するため常設されることになり、公園とのコラボレーションが今後も続いていることとなった。

06. 「群集浴場プロジェクト」
白石 晃一
生駒湯（大阪市都島区）

地下空間には、電車のほか、水道や電気・ガスなど、様々な都市インフラを支える設備も埋設されている。水中のかすかな音に寄り添うために作られた作品は、しかし普段、気にとめるこどもない都市の構造にまで想像力を働かせ、我々の生活基盤をなす都市を立体的かつリアルに感じとる稀有な機会を与えてくれた。

09. 「イッテキマス NIPPON シリーズ“花子”」
Yotta Groove
中之島公園

銭湯に虹を架ける
虹をテーマに作品を作ってきたアーティストが、廃業した銭湯の煙突から人工的に雨を降らせて、虹を架けようというプロジェクトに挑戦。舞台は旧生駒湯さん。参加者の協力のもと、銭湯の浴槽から手動ポンプで水を汲み上げ、建物の外に高く

期間中、募集に関する「説明会」を開催します。日時等、詳細はおおさかカンヴァス推進事業の公式WEBをご覧ください。

【募集に関する条件や注意等】

募集内容

作品は新作、既作いずれでも結構です。既に制作済みの作品の展示のみを提案いただいても結構です。ただし、既作の場合は、制作に要した費用は支援対象となりません。また、提案者が全ての権利を有するものに限ります。なお、営利を主目的とするなど、本事業の目的に沿わない提案はご遠慮ください。

事業スケジュール

○応募受付 平成23年6月6日(月)～平成23年7月22日(金)必着
(作品の選考過程において、追加資料のお願いやヒアリング等を行う場合があります)

○審査結果の発表 平成23年8月下旬

おおさかカンヴァス推進事業の公式WEBサイトで発表するとともに、応募者へ通知します。

○作品制作に関する説明会 平成23年9月頃

○作品制作 平成23年9月頃から作品展示・発表までの間で1～2ヶ月間程度(作品により異なります)

○作品展示・発表 平成23年10月下旬から平成24年2月までの期間(作品により異なります)

主な審査基準

○この事業の目的に沿った大阪の都市、または地域の魅力発掘・発信度

○アイデアの斬新さ

○実現性の高さ など

応募方法等 (詳細は公式WEBサイトをご確認ください)

1) 応募資格

おおさかカンヴァス推進事業の趣旨を理解し、選考された場合には作品の完成まで取り組める方。
(個人・グループを問いません)

2) 応募可能提案数

1名・グループにつき5提案まで。(1作品毎に1提案となります)

提案は、応募者に全ての権利があるものに限ります。万一、第三者と紛争が生じた場合は、主催者は一切の責任を負いませんので、応募者自身の責任と費用負担によって解決していただきます。

3) 提出物

下記の内容を A3サイズ以内、かつ合計10枚以内でまとめて、ホッチキス止めで提出。

※ ファイル・パネル不可。言語は日本語に限ります。

※ 提出物は返却しません。

※ 複数提案される場合は提案毎に提出物を作成してください。

(ア) 所定の応募用紙(おおさかカンヴァス推進事業の公式WEBサイトからダウンロード)

(イ) 作品プラン

(ウ) 必要な制作資材等の内容と経費見積り、必要な支援人員、等

(エ) 経歴書・過去作品事例などの参考資料(提出は自由です)

(オ) 上記の全てを電子データで記録したCD-ROMまたはDVD-ROM

4) 応募に関する質問の受付と回答

平成23年6月6日(月)～平成23年6月27日(月)

回答はおおさかカンヴァス推進事業の公式WEBサイトで7月4日(月)まで掲載します。

※ 質問は所定の質問票により、電子メールまたはFAXのいずれかの方法に限ります。電話等による個別の質問には対応しませんので、ご了承ください。

※ 質問票はおおさかカンヴァス推進事業の公式WEBサイトからダウンロードしてください。

※ コラボカンヴァス部門で記載されている施設等へ、直接のご質問はご遠慮ください。

5) 応募先

〒559-8555 大阪府 府民文化部 都市魅力創造局 文化課

おおさかカンヴァス推進事業担当窓口(応募受付は、郵送のみとします)

制作条件 (詳細は公式WEBサイトをご確認ください)

作品制作に着手するまでに、作品ごとに制作条件や制作支援内容について、主催者及び主催者が別途委託する制作支援事業者と協定を締結していただきます。

1) 設置環境に関する条件:

○作品は、概ね半年間は良好な状態を維持するものとします。(作品の発表または展示期間は、作者と主催者及び作品発表場所管理者の協議により個別に決定します)

パフォーマンスやイベント、ワークショップ等は平成24年2月までに、原則として複数回実施していただきます。(実施時期は主催者と協議のうえ個別に決定します)

○作品は、発表期間終了後、原則として撤去し、現状復旧をするものとします。(撤去や現状復旧にかかる費用を制作予算に含んで見積もってください)

2) 制作予算

○作品制作にあたっては、必要な制作資材等を、300万円を上限に、概ね下記の金額・点数を予定し、主催者の予算の範囲内で制作支援を行います。

・200万円～300万円 数点

・概ね 100万円 約20点

・概ね 30万円 約20点

提出いただく作品プランに、必要な制作資材等とそれらの購入に係る経費見積りを添付してください。

○作品制作にかかる旅費(居住地からの経済的合理的な経路の範囲内とします)、交通費(実費額とします)、滞在費(飲食を除く)。大阪滞在1泊につき7,600円以下とします)、機材リース料、保険料、作品警備委託費、作品展示・発表に係る光熱水費、輸送費、足場の設置・撤去費、作品撤去や発表場所の現状復旧にかかる経費、作品発表場所や練習場借り上げ料、印刷費等が必要な場合についても制作予算に含め見積り金額を提示してください。(おおよその額で結構です)

○作品制作にかかる旅費(居住地からの経済的合理的な経路の範囲内とします)、交通費(実費額とします)、滞在費(飲食を除く)。大阪滞在1泊につき7,600円以下とします)、機材リース料、保険料、作品警備委託費、作品展示・発表に係る光熱水費、輸送費、足場の設置・撤去費、作品撤去や発表場所の現状復旧にかかる経費、作品発表場所や練習場借り上げ料、印刷費等が必要な場合についても制作予算に含め見積り金額を提示してください。(おおよその額で結構です)

○作品の制作・展示・発表・撤去等にかかる費用(運送料、保管料等)、展示場所の賃料等を含む。また、運送・搬出料等も含まれます。

○何らかの機能を有する場所において展示・発表する場合は、展示・発表期間中、その本来の機能を維持してください。

また、制作支援の上限を上回る場合、作品全体の規模や実施可能性を審査するため、作品制作に係る全体予算(支援対象外の経費を除く)を示してください。

なお、主催者以外からの助成を予定しているものは「制作予算見積書」の備考欄に助成額と助成額を、自費対応等のため支援が不必要なものは「制作予算見積書」の備考欄に「支援不要」と記載してください。

なお、下記の費用は支援対象となりませんので、ご注意ください。

※ 機材購入費、人件費、飲食費、通信費 等

○本事業では、賞金や謝礼、アーティストフロー等は予定しておりません。

また、制作資材等は同品の現物支給、主催者が別途委託する制作支援事業者による役務の提供、チケットや回数券等の交付となる場合があります。

○最終的な支援内容は、作者と主催者及び作品発表場所管理者の協議により個別に決定します。(見積り金額が必ず制作予算として承認されるわけではありません)

なお、基本的には予算の増額は行いませんので、それ以上の予算での制作を希望される場合は、自己資金でなかなかようとしていただきます。

○別途作成プランや詳細見積書の提出をお願いする場合があります。

また、作品決定後であっても、社会情勢の急激な変化など止むを得ず変更する場合があります。

3) 制作支援人員

○作品の制作に際して作者を補助する制作支援人員や、作品展示・発表に際して観覧者の安全配慮のために案内誘導員を配置する必要がある場合は、主催者が別途委託する制作支援事業者からの人員派遣により行う予定です。支援人員に依頼する作業内容や必要な資格等について、制作予算見積書の「必要な支援人員」欄に記載してください。

ただし、支援人員に特定の個人や団体に属する方を指定することはできません。また、アシスタントやアルバイト等を雇用する人件費は、本事業の支援対象なりません。

4) 著作権、所有権の取り扱い

○全ての作品及び応募資料の著作権は作者に帰属します。

大阪のまちをカンヴァスに！ あなたの自由な発想と感性、創作意欲を大阪で実現

部門は2つ。両方に応募もOK！

発表したい「場所」と「作品」の両方を提案していただく【フリーカンヴァス部門】と、主催者が紹介する「場所」や「事業」に対して「作品」を提案していただく【コラボカンヴァス部門】があります。コラボカンヴァス部門のうち、3箇所は『コアエリア』として、作品を集中して同時に展示する予定です。どちらに応募していただいても、両方に応募していただいても結構です。

事業目的 この事業は、「大阪文化振興新戦略」に基づき、「大阪の街を使いこなす」～都市全体を発表の場に！～と「府民の思いを都市づくりに活かす」～官民協働のプラットフォーム～の二つの戦略のもと、大阪のまち全体をアーティストやクリエイター等の発表の場として活用し、大阪の新たな都市魅力を創造・発信しようとするものです。公共空間とアートのコラボレーションによって、都市や地域の新たな魅力を発見・発信することと、アーティストやクリエイターが、アイデアと想いを実現できる機会を得ることを目的とします。(この場合の公共空間とは、公共施設に限らず、不特定多数の人の目に触れる場所とします)

募集内容 大阪のまち全体をアーティストやクリエイターの発表の場として「カンヴァス」に見立て、制作したい作品と場所についてアイデアを募集、集まったアイデアの中から40作品程度を選考して作品を発表していただきます。絵画(ペインティング)だけでなく、彫刻やオブジェ、パフォーマンス、イベント、プロジェクト、ワークショップなど、アートやデザインのあらゆる表現形態を対象とします。

応募対象者 当事業の趣旨を理解し、選考された場合に作品の完成まで取り組める方。
(個人・グループは問いません)

例:アーティスト、デザイナー、クリエイター、地域団体・NPO、アート・プロデューサー等

制作予算 作品制作にあたっては、300万円を上限に制作支援を行います。

制作支援の目安:

200万～300万円一数点

概ね100万円一約20点

概ね30万円一約20点

※制作支援に含まれる費用:材料費、旅費、交通費、滞在費(飲食を除く)、機材リース料、保険料、作品展示発表に係る光熱水費、輸送費、足場の設置・撤去費、作品撤去や発表場所の現状復旧に係る経費、作品発表場所や練習場借り上げ費、印刷費等

事業スケジュール

応募受付 平成23年6月6日(月)～平成23年7月22日(金)必着

結果発表 平成23年8月下旬

作品展示・発表 平成23年10月下旬から平成24年2月までの期間(作品により異なります)

審査員

建畠 哲(たてはた あきら)

京都市立芸術大学長、埼玉県立近代美術館長
1947年、京都生まれ。多摩美術大学教授、国立国際美術館長等を経て、今年から現職。90年、93年にヴェネチア・ビエンナーレ日本委員会コミッショナー、横浜トリエンナーレ2001のアーティスティックディレクター。昨年は、あいちトリエンナーレ2010芸術監督を務めた。詩人、美術評論家としても活動中。「余白のランナー」(歴程新锐賞)、「度量の犬」(高見順賞)などの詩集の他、多数の著書がある。

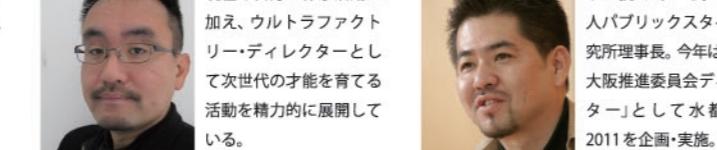
玉置 泰紀(たまき やすのり)

関西ウォーカー編集部 編集長
1961年大阪生まれ。同志社大学卒業後、産経新聞大阪本社に入社。7年間勤務後、福武書店(現ベネッセ)に転職。「たまごクラブ」「ひよこクラブ」の準備に携わった後、角川書店に再転職。東京版「シュミ」、九州ウォーカー創刊、後に同誌編集長、東海ウォーカー、大人のウォーカーの創刊、編集長を経て、17年ぶりに大阪に戻り、現在に至る。コンピリートするほど好きなものは、ホームズシリーズに、チャンドラー、ピートルズとストーンズ、フー。



ヤノベケンジ

現代美術作家、カルトグラフクリエーター、ディレクター(京都造形芸術大学教授)
1966年、大阪生まれ。ランドスケープ・デザイナー及びまちづくりを国内外で実践。千里リハビリテーション病院(グッドデザイン賞等)では、造園デザインにリハビリテーション機能を潜在させ、デザインとプログラムを共存させる新しい方向性を示した。中国では青島、杭州、吉林などで10を越えるプロジェクトを手がけ、世界的にも前例のない状況だからこそ問うべき都市づくりをテーマに「オールナイトごみひろい」や、ダレカのコメを応援するプロジェクト「ユメコラボ」、小学生向けキャリア教育プログラム「まちときどき力」など、社会的課題解決に向けた様々な企画、プロジェクトを開拓している。



忽那 裕樹(くつな ひろき)

塩山 謙(しおやま りょう)
sumasuta(NPO法人スマイルスタイル)代表
1984年兵庫生まれ。2007年社会問題に対する「無関心」に社会的課題を感じ、sumasutaを設立。企業・行政・地域とともに、社会的課題の解決に向けた仕組みの構築を目指す。「社会ゴト」を「自分ゴト」と考えられるよう「きっかけづくり」をテーマに「オールナイトごみひろい」や、ダレカのコメを応援するプロジェクト「ユメコラボ」、小学生向けキャリア教育プログラム「まちときどき力」など、社会的課題解決に向けた様々な企画、プロジェクトを開拓している。



B: コラボカンヴァス部門

大阪中の魅力あふれる場所や企画とコラボ！

主催者や作品発表可能場所管理者等が提案する候補地や事業に対して「作品やデザイン」を応募いただくものです。また、中之島エリア・服部緑地・咲洲コスモスクエア地区の3箇所は「コアエリア」として、作品を集中して同時に展示する予定です。通天閣や関西国際空港など大阪を代表する場所から、滝畠ダムや下赤阪の棚田まで、およそ70件の個性あふれる場所が候補地になっています。

候補地や対象事業は随時追加されますので、おおさかカンヴァス推進事業の公式WEBサイトで最新の情報をご確認ください。



中之島エリア・服部緑地・咲洲コスモスクエア地区の3箇所を「コアエリア」として、作品を集中して同時に展示する予定です。

B:1 3つのコアエリアのテーマに合った作品や企画を大募集

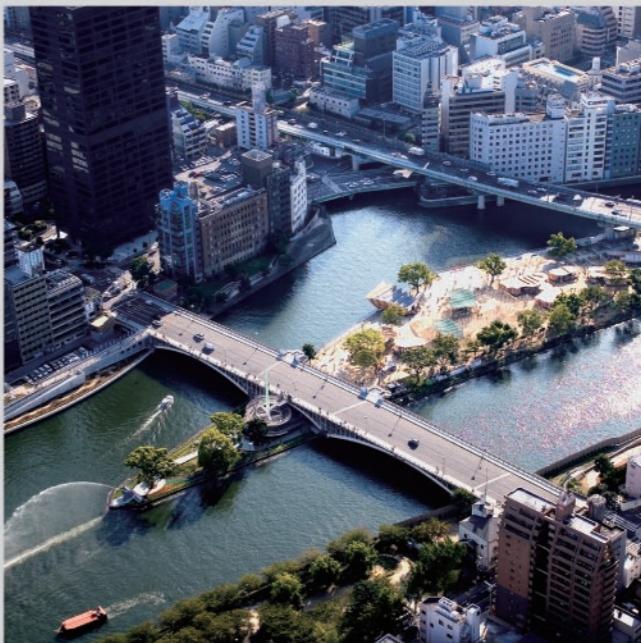
1. 中之島エリア “水都大阪2011とともに盛りあがろう”

“水都”としての再生に取り組む大阪。今年は10月22・23日を中心、中之島公園を核とした「水都大阪2011」が開催され、水辺の魅力を発信するイベントやプロジェクトが大集合。10月30日に実施される「大阪マラソン」までの1週間、たくさん水辺のチャレンジが行われるトライアルウィークとなります。

おおさかカンヴァス推進事業では、「水都大阪2011」の主会場である中之島公園や八軒家浜、中之島公園噴水付近の水面等を舞台にした、水辺の魅力を発信する作品やイベント、ワークショップ等の提案を募集します。また、「大阪マラソン」とのコラボも目指しています。

“水都大阪”的顔となる、象徴的な作品にぜひチャレンジしてください。

*作品やイベントの展示・発表の開始時期は10月下旬の「水都大阪2011」の開催と合わせていただきます。



中之島 ヤノベケンジ「ラッキードラゴン」(水都大阪2009／撮影:塚正玲子)

2. 服部緑地 “都市公園の可能性を開き、地域の人々とのコミュニケーションを楽しむ”

広さ約126ha(甲子園球場の約33倍)という府内最大級の規模を誇る服部緑地には、年間約600万人が訪れ、園内には花・木・森・水辺をはじめ、植物園、日本民家集落博物館などの施設もあります。また様々なボランティア団体が公園の魅力を伝える活動を行うなど、地域の人々にも愛着を持って支えられています。

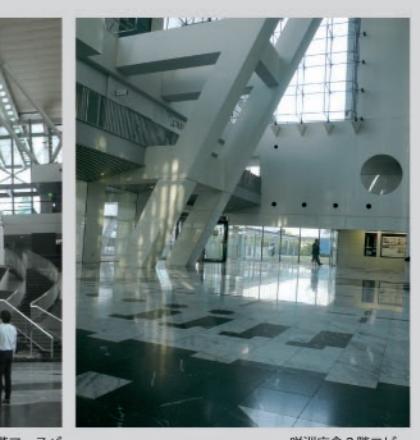
この魅力あふれる都市公園全体をおおさかカンヴァス推進事業の舞台として提供します。屋外での作品展示やワークショップ、イベント、植物園とのコラボレーションなど、公園の可能性を大きく広げる多彩な提案をお待ちしています。



服部緑地 都市緑化植物園 気流部によるワークショップ(おおさかカンヴァス推進事業2010)

3. 咲洲コスモスクエア地区 “巨大な屋内空間とのコラボレーションを中心に”

アジアに開かれた海の玄関口を目指す咲洲コスモスクエア地区。海が見える抜群のロケーションで、海の彼方に沈む夕陽やベイエリアの夜景とイルミネーションが印象的です。ウォーターフrontの景観や大阪府咲洲庁舎、ATC(アジア太平洋トレードセンター)等の巨大な屋内空間を活かした作品の提案をお待ちしています。



咲洲庁舎2階ロビー

B:2 木津川ウォールペインティング2011

新しく整備される遊歩道の対岸に壁画を募集！

昨年度、大阪府はウォールペインティングと遊歩道整備を一体的に行う目的のもと木津川遊歩空間のデザインコンペを開催しました。これはデザイン性を重視した新しい公共事業を実施する社会実験として取り組んだものです。コンペの結果、地域の人々が思い思いに憩い、活用できる遊歩道プランが採択されました。この遊歩道の対岸に設置するウォールペインティング作品を募集します。作品のテーマは遊歩空間のコンセプトに合わせたものとします。

場 所	大阪市西区内 木津川護岸堤防 (千代崎橋～伯楽橋間の左岸90m、および伯楽橋～松島橋)
募 集 点 数	最大 6 人(組)
作品サイズ	最小の幅 高さ約1.9m×幅約15m 最大の幅 高さ約1.9m×幅約80m ※上記範囲内にて、自由な長さで提案してください。
制作 期間	平成23年11月中旬から3週間程度
制作 条件	制作に必要な塗料、刷毛などの資材は、原則提供します。



1. 都市計画道路予定地 「泉州山手線」

都市計画道路泉州山手線は、空港アクセスの利便性向上や地域の発展に欠かせない重要な路線として位置づけられています。(供用開始時期未定)



2. りんくう公園予定地

りんくう公園は世界に開かれた大阪の玄関口、関西国際空港の対岸にある公園です。海に面する利便性向上や地域の発展に欠かせない重要な路線として位置づけられています。(供用開始時期未定)



3. 滝畠ダム

滝畠ダムは一級河川大和川水系石川の上流部耕地542haを含む流域の治水対策として洪水調整、および石川下流部に広がる耕地400haのかんがい用水の確保、ならびに上水道水源確保のため、昭和57年に完成した総貯水量934万トンの多目的ダムです。ダム堤体は、幅120.5m、高さ62mの全国でも珍しい曲線重力式コンクリートダムになっています。ダム竣工30周年を記念して、ダム湖や周辺景観と調和し、一定期間ダムや地域のPRができる作品を期待しています。

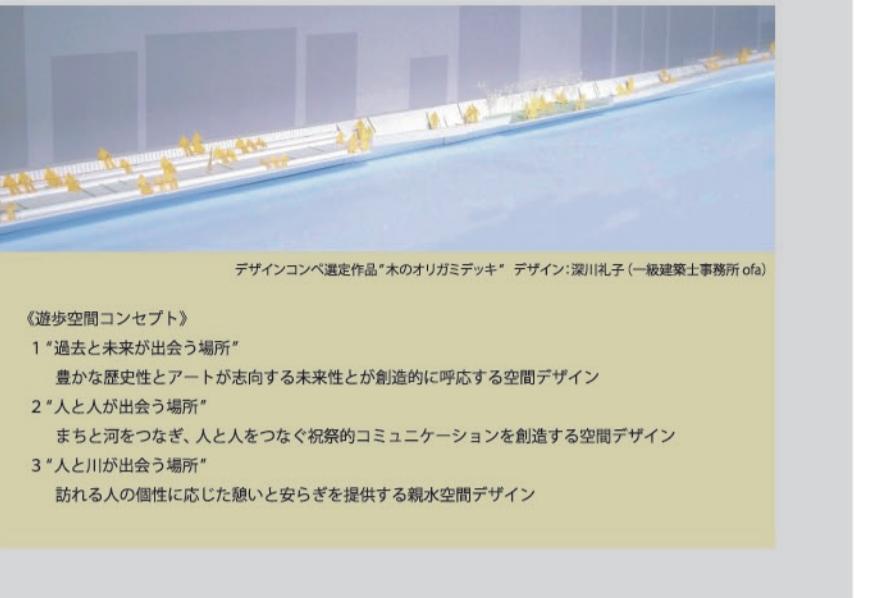


4. 下赤阪の棚田

「下赤阪の棚田」は、平成11年に「日本の棚田百選」に選ばれた、面積7.4ha、約250枚の棚田です。楠木正成が築城したとされる赤坂城の付近に位置し、春には「水を引き込んだ棚田」、夏には「青々とした棚田」、秋には「黄金色の稲穂が波打つ棚田」、冬には「雪化粧をした棚田」というように四季折々の美しい姿を見せてくれます。



人が集い、憩う遊歩道が誕生します



B:コラボカンヴァス部門

B:3 まだまだある 魅力いっぱいの候補地

観光名所から意外な場所まで.. 大阪全域にてコラボ企画を募集!

大阪府域の多様な施設や利用されていない土地等を作品展示・発表場所として提供します(現在の候補地、およそ70件)。最新情報は公式WEBサイトにて)。田尻漁港防潮堤へのウォールペインティング、河南町営福祉バスへのラッピングアート、地域イベント「高槻まちなかアート」とのコラボレーションなど、多彩な場所や企画が目白押し。都市のインフラとの創造的コラボレーションによって、これまでとは違った都市の姿や使いこなし方を提案するプランをお待ちしています。



関西国際空港では昨年度、5点(協賛作品含む)の作品を展示しました。世界への玄関口での展示は人気があり、今年度も引き続き募集します。通天閣も展示・発表の舞台に。地元の人々の協力も得られるかもしれません。

4. 下赤阪の棚田

「下赤阪の棚田」は、平成11年に「日本の棚田百選」に選ばれた、面積7.4ha、約250枚の棚田です。楠木正成が築城したとされる赤坂城の付近に位置し、春には「水を引き込んだ棚田」、夏には「青々とした棚田」、秋には「黄金色の稲穂が波打つ棚田」、冬には「雪化粧をした棚田」というように四季折々の美しい姿を見せてくれます。



たというこけしの歴史性に立ち返り、像の足元には「足湯」も設けられた。
気がつけばずっと昔からある「日本的なもの」。歴史的・社会的な影響を受け、形やたたずまいを変えながら生き残ってきた、そんなモノたちをどう未来へ引き継いでいくのか、NIPPON的なものとは何か、という問い合わせから彼らの“イッテキマス NIPPONシリーズ”が始まっている。どこか懐かしく、でも何か新しい「花子」は不敵な笑みを浮かべながら、私たちの文化的遺伝子がどこから来て、どこに向かっているのかを問いかけてくる。

13.「フラミンゴ畑」
酒谷 星子
KENYAKAGAYA(大阪市住之江区北加賀屋)
長屋が異空間に変身
3棟続きの長屋の床や天井を抜き、壁をつけた空間には、色鮮やかな物の大フラミンゴが數十羽、群れをなすように展示された。壁面は、サファリの動物が集う屋の風景と夜の静けさ、雄大な朝焼けが描き分けられ、作者が実際にケニアで見た大自然の感動を再現すべく濃密な空間が生まれ出された。アーティストやクリエイターに安ぐ物件を貸し、自由な使い方をしてもらうことで地域の再生・発信を図ろうとする周辺エリアにとって、住宅街に突如出現した異空間はひとつの可能性を示した。



14.「B-PROJECTへそで投げろ」
永井 英男
大阪府咲洲庁舎(旧WTC)
川を巡る地域の言葉
横堀川周辺には北船場など大阪の文化と歴史が色濃く集積している。アーティストはそんな地域の人たちにかつての暮らしや川、地元への思いについてインタビューを行い、印象的な言葉を選んだ。「船場ごと使ってたんは二代うえやなあ」「大昔、高麗橋の下が水泳場で、子供がぱちゅぱちゅやってたん」といった言葉をオブジェにして緑道や護岸に展示。訪れた人がゆっくりと空間を味わうための椅子も80脚並べられた。

インタビュー等にあたっては、川を活かしたまちづくりに取り組む地元の「よこ会(東横堀川水辺再生協議会)」が全面協力。公共空間をいかに育み、使いこなしていくかという課題に取り組んできた人々にとって、今回の作品は自分たちが紡いだ文化を再発見し、地域の可能性をさらに開くヒントにもなったようである。

11.「どんどこ! 巨大紙相撲 此花場所」
KOSUGEI-16
此花区民ホール
圧倒的存在感

巨大なレスラーが自動車にプロレス技をかける様子を表現した作品。生きる中で直面する様々な出来事に対し、強烈であろうと/orする人間の精神力をユーモアを交えて表現している。

本物の自動車を相手にパックドロップをかけるレスラーの姿、筋肉の盛り上がりや険しい表情を丁寧に表現し、迫真的であります。どこかユーモラス。全長7mを超える圧倒的な存在感に、期間中多くの人が訪れた。人々に希望を与えるモニュメントとなるように、という作者の願いが込められた本作は、奇しくも震災翌日から展示が始まった。アートが喚起するイメージの力はどうまで届くだろう。

15.「ストレッチングシティ Stretching City」
原 倫太郎
大阪府咲洲庁舎(旧WTC)
偶然が生み出す豊かな物語

作者が世界各地で出会った出来事を物語りにして刺繡した布と、その時に拾ったモノなどをひとつの作品として構成。ボタンや片方だけのイヤリング、おもちゃの破片・・・見出しがないモノも、出会った時の物語や背景によって、ある人にとっては特別な存在になる。誰もそんな繊細で親密なモノとの偶然の出会いや思い出を心のどこかに持っている。世界は誰かにとっての特別な欠片(かけら)で溢れているのだ。ふとそんな想像を巡らせる親密なひとときを持つことは、旅先での出会いをさらに豊かに、多様にするだろう。

19.「ジャンボプロジェクト」
コルメナ(障害者自立支援法に基づく生活介護事業所)
関西国際空港
未来的な飛躍

作者が想を得たのはハリウッドのSF映画で高層ビル群が爆破・再生を繰り返すシーン。CG技術を駆使することでこそ可能となったイメージを、敢えてアナログ的手法、つまり電気仕掛けで不器用に伸縮する箱としてシンプルに表現することで、デジタルとアナログの本当のところの違いは何かについて、静かに問いかけている。

16.「Stain "Lightfall"」 藤井 秀全 大阪府咲洲庁舎(旧WTC)



タペストリーにして展示。未来に向けて躍進するイメージで描かれた表現は、空港の広々とした空間でものびと雄大な存在感を示した。作業所ではこういった作品をTシャツやバッグにして販売するなど、障害者が社会とどうつながり、どう開いていくか、様々な取り組みを続けている。事業所の「コルメナ」はスペイン語で「巣箱」を意味する。「巣箱」から生まれたアート作品が次々と都市でその魅力を羽ばたかせよう、「ジャンボプロジェクト」にはそんな願いも込められている。

タペストリーにして展示。未来に向けて躍進するイメージで描かれた表現は、空港の広々とした空間でものびと雄大な存在感を示した。作業所ではこういった作品をTシャツやバッグにして販売するなど、障害者が社会とどうつながり、どう開いていくか、様々な取り組みを続けている。事業所の「コルメナ」はスペイン語で「巣箱」を意味する。「巣箱」から生まれたアート作品が次々と都市でその魅力を羽ばたかせよう、「ジャンボプロジェクト」にはそんな願いも込められている。

20.「The Schoolchild Umbrella=光の雨」
西村 正徳
関西国際空港
傘の中に入る雨
黄色い学童傘を直径7メートルにまで拡大。傘布には小さな穴が無数にあられ、傘の下にいる光の雨が降りそぞろのような感覚がもたらされる。傘の中と外とでまたたく間に違う光の体感を純粋に楽しんでもらおう、シンプルに発想された作品である。床に映った光の雨粒に見入ったり、巨大な傘の柄をまたいでみたい…あわただしい旅の出発前、空港という機能性に満ちあふれた空間に、感覚をリフレッシュさせる異空間が突如現れ、多くの人の印象に残る作品となつた。

21.環境感知器「海風彦、陸風彦」
石松 丈佳&名古屋工業大学環境とデザイン研究室
せんなん里海公園
風を見る装置

風や湿度など、自然環境の変化を視覚化する作品「環境探知機」に取組んできた作者。今回は海沿いの公園を展示場所に選んだ。海側と陸側のふたつのエリアにビニールテープを張り渡し、海風と陸風、そして風の瞬間を捉えようという試みだ。カラフルなビニールテープはその色とりどりの色彩が空間に映えて美しく、風の強さや方角によって揺れ方や音が変化に富み、我々の感覚をおおいに楽しめた。環境の変化にどんどん純感になる我々の都市生活。体感が刺激される機会を増やすことで、豊かな暮らしの本質に気づくきっかけになれば、と作者は語る。

22.「木津川ウォールペインティング」
千代崎橋～伯楽橋左岸側 木津川防潮堤
水都の魅力を創造

木津川の遊歩道整備事業と合わせておこなうことで、魅力的な水辺空間の創出に取り組んでいるエリア。昨年制作された11作品のウォールペインティングに引き続き、2010年度には5組の作品が完成した。(作家名:HANCOX SALLY、MINI_OOSAKA、TONG_OOSAKA、TM7 design works)との一級建築士事務所+今昔西横堀川と新しい町人のまちづくり)優れたデザインによる遊歩道と、そこから眺める対岸のウォールペインティングが生み出す親水空間で“水都大阪”的魅力を発信することを目指している。

23.「電気自動車(EV)タクシーのデザイン」
大阪府が導入した電気自動車(EV)タクシーのラッピングデザインを公募。近未来的な大阪をイメージした見宗剛さんのデザインが採用された。50台のEVタクシーが大阪の街を走行中。

コラボカンヴァス部門の候補地は他にも多数ございます。詳細については、おおさかカンヴァス推進事業の公式WEBサイトをご確認ください。